

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護の基本Ⅱ Fundamentals of care II		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の学生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
介護の基本Ⅰ、人間の尊厳と自立				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
介護の基本Ⅲ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
久保 由佳	福祉棟2F	月～金 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
「介護の質」を向上させるためには「尊厳を支える介護」や「自立支援に向けた介護」が不可欠であり、介護実践の場で展開されなければならない。それが介護の基本的要件とも言える。本授業では、可能な限り介護の実践事例をあげながら、利用者の立場で考えられる姿勢を身につける。				
授業の目標				
①QOLの意味を理解し、その人らしい生活を支援することの重要性を説明できるようにする。 ②ノーマライゼーションの歴史的背景と考え方を説明できるようにする。 ③利用者主体の考え方とその具体的な方法について述べられるようにする。 ④自立(自律)の概念と自立支援に必要な視点を挙げられるようにする。 ⑤自立に向けた介護の視点から、「自己選択・自己決定」「エンパワメント」「個別ケア」の必要性とあり方について説明できるようにする。				
授業の方法				
講義を中心に「介護」と「利用者主体」について考える授業とする。事例検討、個人およびグループワーク、視聴覚教材の視聴等を取り入れ、意見交換や発表を通して自己の考えを深める。				
学習の成果(学習成果)				
利用者を生活の主体者として捉え、「尊厳の保持」「自立支援」の観点から、人権やプライバシーに配慮した利用者主体の介護を実践することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法・欠席時の対応など) 介護の特性と対象者支援の基本的理念について			
第2回目	尊厳を支える介護① 法律等からみる尊厳の保持、QOLの理解について			
第3回目	尊厳を支える介護② ノーマライゼーションの歴史的背景と理念、ノーマライゼーションと介護			
第4回目	尊厳を支える介護③ 利用者主体(不適切な介護事例から考える) グループワーク			
第5回目	尊厳を支える介護④ 利用者主体(不適切な介護事例から考える) グループワーク			
第6回目	尊厳を支える介護⑤ 利用者主体(不適切な介護事例から考える) 発表とまとめ			

第7回目	尊厳を支える介護⑥ 利用者主体の考え方、「プロフェッショナル 介護福祉士 和田行男の仕事」の視聴 【レポート1：利用者主体とは、提出は第9回目の授業時】
第8回目	自立に向けた介護① 自立支援、自立と自律の考え方
第9回目	自立に向けた介護② 自己選択・自己決定（自己の生活から考える）
第10回目	自立に向けた介護③ 自己選択・自己決定（事例検討、実践事例の紹介） 「いつまでも自分らしく生きるために～人としての暮らしと自立を支援する～」の視聴
第11回目	自立に向けた介護④ 生活意欲への働きかけ
第12回目	自立に向けた介護⑤ エンパワメント
第13回目	自立に向けた介護⑥ 集団ケアと個別ケア、個別ケアの必要性 個人ワーク 【レポート2：尊厳と自立の視点から介護について考える、提出は第15回目の授業時】
第14回目	自立に向けた介護⑦ 個別ケアのあり方 個人およびグループワーク、まとめ
第15回目	尊厳の保持と自立支援、これからの介護および介護福祉士のあり方

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	S評価は、①授業で使用する教材を準備している。②授業に集中し、必要なことはノートにとっている。③課題の提出期限を守っている。④グループワーク時は他学生の意見を聞いた上で、自分の考えを述べている。
レポート	20%	第7回目と第13回目にレポートを課す。S評価のレポートは、課題のテーマに沿って学びや気づきが具体的に記述されていること。自分の考えがまとめられていること。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	穴埋め、選択、記述形式の問題とする。記述問題に関しては、根拠(エビデンス)に基づき、尊厳と自立の視点から介護について自分の言葉で述べること。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

新・介護福祉士養成講座 第3巻「介護の基本Ⅰ」および第4巻「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版
その他、必要に応じて資料を配布する。

履修上の留意点・ルール

日頃から高齢者や障害者福祉に関する内容に目を向け、情報を収集すること。目的意識をもって授業に取り組み、グループワークでは積極的に意見交換して欲しい。飲食物や携帯電話等、教材以外のものは机上に置かない。やむを得ず欠席した場合は、速やかに届け出を提出すること。